

諏訪東京理科大学改革構想の概要

大学の理念

- 母体校・東京理科大学の建学の精神「**理学の普及を以て国運の発展の基礎とする**」を諏訪圏、さらには長野県域において具現化し、地域の発展に貢献する。
- 急速に発達する科学技術とグローバル化する社会・経済に対応し、自ら将来を開拓できる主体性の確立した人材を育成する。
- 地域に一層貢献する大学として、新しい産業や技術の創出と、地域産業と文化の振興に取り組み、人を地域に集め、育て、地域創生の拠点となる。

教育の目標

- 以下の知識と能力を持つ人材を育てる。
- 自らの専門分野における基礎知識と応用能力を有するとともに、それらを地域及びより広い社会のために役立てることができる力
 - 工学の基礎・応用能力に加えてマネジメントの素養を持ち、問題を発見し解決できる力
 - 自律しながらも他者と対話・協調し、地域においてもまたグローバルにも活躍できる社会人としての基礎力

大学改革の特色

教育・研究改革の特色

- 中南信唯一の工学系大学として、その特色を鮮明化させるため、**工学部1学部の構成に改組**し、ものづくり、農業、医用・健康、環境エネルギー、地域情報などの分野と、それらを今後発展させる要となる情報応用技術を教育の中心に置く。
- 開学以来の教育理念である工学と経営学の融合教育は、当該地域の産業構造の変化に伴いその重要性を増しているため、**共通・マネジメント教育センター**を置いて堅持する。
- 医用・健康、情報通信、農業、環境エネルギー、地域情報**、など、当該地域において今後重要となる分野に一層貢献し得る研究及び地域支援体制を整備する。
- 自治体・企業の協力を得て、地域の課題を発見し解決するPBL型教育を実施し、問題解決能力や社会人基礎力を養成する。
- 地域の**グローバル化**に対応して、英語教育や海外インターンシップ等を充実させる。
- 大学院**は、学生に実践力をつけさせ、かつ工学系の地域貢献の重要な活力となるため強化する。

大学運営の改革

大学運営

- 学長のガバナンスが発揮できる運営体制。
- 地域の要望に応えかつ評価を受けるため、経営審議会（仮称）を設置。
- 県内の大学や高等学校との連携強化
分野、地域による役割分担と相互協力。高大接続の推進
- 東京理科大学との連携強化
特別編入学、海外留学、研究協力等の連携、IT教育等の支援
- 学生支援の充実：
地元指定アバートの設備充実、通学利便向上、グローバル化対応力。

地域貢献

- 地域連携センターの強化
ものづくり技術支援、自治体への協力、企業経営への協力、諏訪圏内地域拠点との連携の充実、学生の参加
- 地域データの収集・分析・活用
- 地域との交流拡大：スキルある住民との相互協力、シニア層との交流、公開講座、グローバル化支援 英語村への住民参加 等

大学の構成（組織の名称は仮称）

大学院・学部・学科・教育センター（入学定員は予定）

大学院	工学・マネジメント研究科 工学・マネジメント専攻			
	博士後期課程（学位：工学/学術）（入学定員2人）			
	修士課程（学位：工学/学術/経営学）（当初15→75人）			
	工学コース		マネジメントコース	
学部	工学部（学位：工学）（300人）			
	情報応用工学科（150人）		機械電気工学科（150人）	
	知能・情報・通信コース	社会情報システムコース	先端機械コース	電気電子コース
	人工知能、情報、通信、医用・健康、IoT	社会・地域情報活用、ビッグデータ、IoT	ロボット、制御、次世代モビリティ	センサー、スマートエネルギー・農業理工学
共通・マネジメント教育	共通・マネジメント教育センター			
	（工学系へのマネジメント基盤教育、理系基礎教育、教養教育、外国語教育、グローバル化対応教育、海外研修支援、英語村、自治体・企業等の経営への協力等）			

研究センター、連携センター等

（東京理科大学） 農業理工学研究部門

地域連携研究開発センター		
医用・健康部門	地域情報・マネジメント部門	地域先進技術部門

地域連携センター		
産学連携センター	生涯学習センター	高大連携推進センター

学習・進路支援		
キャリアセンター	学習支援室	英語村